

子どもの笑顔 The BIG K.I.S.S. プロジェクト

【海外からの支援を福島の子どもたちへつなげる取り組み】

＜お問合せ先＞ 〒960-8141 福島市渡利字絵馬平 86-9
TEL.024-526-4303
FAX.024-526-4302
http://d.hatena.ne.jp/KISSPROJECT/

子どもたちがそれぞれの故郷への理解と愛着を深めながら成長できるようこれからも人と人をつなぐ活動を続けて参ります



▲「英国で開催したチャリティーコンサートで集めた支援金で音楽を届けたい」という願いのもと開催されたBBモフランさん(パーカッション奏者)と、たたらさんのコンサート(2016.6.17)



▲画材セラピー(2015.1.13)



▲福島の卵の安全性とおいさを伝えるイベント「ファミリー卵教室」(2015.12.26)

震災を境に支援元と支援先とのマッチング役を担う

「子どもの笑顔 The BIG K.I.S.S. プロジェクト」(以下、「キッス」)は、海外在住の日本人の国際結婚家庭とその子どもたちの支援を目的に設立された団体です。当初は、事務局がある福島市とオーストラリアを中心に活動していましたが、震災以降はインドネシアや英国とフィールドを広げています。その変化を「キッス」の代表、林由美子さんは「海外に出向く国際交流は、これまで通りですが、震災を境に海外からの支援を福島の子どもたちにつなぐ活動が増えました」と話します。きっかけは、国際交流で親交を深めて来た豪州在住のママたちでした。2011年3月に第一弾としてバザーと募金活動で集めた義援金が福島の事務局に届けられました。林さんたちは、浄財を福島県や飯館村の妊産婦・乳幼児支援として届けました。やがて他の国内外の団体からも支援のマッチングを依頼されるようになり、福島の保育園や幼稚園、小学校などこれまでに150件以上のマッチングを行ってきました。つなぎ役として大切にしてきたことを伺うと「公平なジャッジとニーズ調査、そして報告です」と林さん。

2015年から専門家派遣事業をスタート

ハワイ在住の格闘家の支援を福島の子どもたちにつないだこともあり。何度も交流を重ねるうちに、子どもたちは「英語で感謝の気持ちを伝えたい」と思うようになりました。そこで、支援金で英語教室の講師派遣する方法を提案するとこれが大成功。その後、「キッス」は、子どもたちの心のケアと

保護者、現場の先生方をサポートする「専門家派遣事業」に舵を切ります。「2015年のことです。講師の先生方も有償なら経済的にも助かります」。現在、「キッス」は、「画材セラピー」「英語で遊ぼう(英語教室)」「事業のビデオ撮影・編集・DVD化、海外との連携」「学習支援」の派遣事業を行っています。なかには、教える内容が素晴らしいと予算化し、講師の方と直接契約して教室を継続する園も出てきました。「子どもを思う人と人がこんなふうに繋がっていきけるって本当に素敵なこと」と林さん。「キッス」では、これからも福島の未来を担う子どもたちのための活動を続けていきます。思いがあるけれどなかなか実現できずに温めている企画があったらぜひ、連絡してみてください。互いにできることを持ち寄れば、道がひらけるかもしれません。

★活動の経緯

- 2009(平成21)年8月、「子どもの笑顔 The BIG K.I.S.S. プロジェクト」発足。日本と海外に事務局責任者を置き活動を始める。
- 2011(平成23)年11月、東日本大震災で被災した福島に支援の手を差し伸べてくれた皆さんに感謝の気持ちを伝えるためにオーストラリア(パース)へ。地震・津波・放射能汚染・風評に苦しむ福島からの報告も行う。以後、本来の活動に加え海外からの支援を福島の子どもたちに届ける役目も担うようになる。
- 2015(平成27)年、海外からの子ども支援を「モノ」から「人」「コト」へ舵を切る。

※写真提供(全て)：子どもの笑顔 The BIG K.I.S.S. プロジェクト
取材年月日：2016年6月16日

特定非営利活動法人アクセスホームさくら

指定障害福祉サービス事業所
就労継続支援B型

【障害者の生活の質を高め就労支援を行う事業】

＜お問合せ先＞ 二本松事務所：〒969-1404 二本松市油井字福岡 168-1
TEL&FAX.0243-24-1664
http://acsakura.in.coocon.jp/
E-mail acsakura.yw@yellow.plala.or.jp

避難先での継続が様々な支援とつながり新事業所建設のきっかけに。故郷で必要とされる時のために地域の福祉資源として有り続けます



▲団結力でいつもの困難を乗り越えてきた職員の皆さん

全国から届く支援を繋いで自主製品を開発

15年前、「特定非営利活動法人アクセスホームさくら」(以下、「さくら」)は、障害者の小規模作業所として浪江町で産声を上げました。原発事故で全町避難を余儀なくされましたが、職員の皆さんは「さくら」をなくしたくない一心で避難先の事業所「特定非営利活動法人和(なごみ)」をはじめ、多くのボランティアの支援を力に2011年8月、二本松市内でリスタートしました。

しかし、震災の影響で受託作業がストップしていたため12名の利用者は、自身の生活習慣を整えながら折り鶴を折るなどの日々が続きました。ピンチをチャンスにと「全国日本手をつなぐ育成会」などの支援を受けて自主製品の開発に乗りだし、完成させたライ麦パンのラスクは、「おいしい」と瞬く間に評判に。受託作業も再開し事業所内が落ち着きはじめてうれしい成果が表れ始めました。「一つは1名の利用者さんが一般企業に就職できたこと。もう一つは利用者さんの工賃です。倍にすることができました。自立して暮らすために収入増を長年の目標にしてきたので報われました」と理事長の渡邊幸江さん。

仕事が増えるほど迫られた覚悟

人と人とのつながりと、東北障害者就業・生活支援センターや福島就業支援ネットワーク、安達圏域生活支援連絡協議会など関係機関とのやりとりを大切にしてきた「さくら」は、その後も順調に仕事を増やしますが、同時に事業所が手狭になり作業環境

の改善に迫られるようになりました。そこで浪江町でそうだったように、二本松でも地域の福祉資源として就労支援や養護学校の実習も受け入れられるようにするために、拠点となる新しい事業所の建設を決めました。

昨秋、オープンした事業所では、二本松の方も含めて20名が施設内外で就労に従事しているほか、養護学校の実習生の受け入れも始まりました。「私たちは、支援に恵まれたこともあると思うのですが、歩みを止めなかったからこそ全国から様々な支援の手が差し伸べられたように思います。止まっていると悲しい辛いので進むしかなかったのですが歩みを止めなくてよかった」と渡邊さん。「まだまだ課題はありますが、「さくら」は、本拠地・浪江町で必要になったときに、すぐに力を発揮できるよう、これからも二本松で力を蓄え続けます。全国から注文が舞い込むラスクは、ホームページからも注文できます。ぜひ、ご利用ください」と呼びかけています。



▲事業所内の作業風景。ラスクやクッキーの製造、自動車部品の組み立てに励む利用者の皆さん

★活動の経緯

- 2001(平成13)年、小規模作業所として設立
- 2007(平成19)3月、特定非営利活動法人取得。障害者自立支援法の施行に伴い地域活動支援センターへ移行
- 2009(平成21)年1月、指定障害福祉サービス事業所(就労継続支援B型)へ移行
- 2011(平成23)年3月、東日本大震災と原発事故で住み慣れた浪江町から避難。同年8月、避難先の二本松市内の民家で事業再開。同年10月からラスクの販売を始める
- 2014(平成26)年11月、二本松市内の新事業所に移転

取材年月日：2016年6月13日

よたがいま 新聞+

通巻 39号
2016-7月

無料

※ご自由にお持ち帰りください。

発行元：
〒960-8101
福島県福島市上町3番4号コマ福島ビル9号
NPO法人市民公益活動パートナーズ
TEL.024-573-8310 FAX.024-573-8319
この新聞は「東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト」の助成を受けて制作しています

「浪江の笑顔」記者、募集中！
活動の投稿記事も大歓迎

リレーインタビュー



【浪江町 生活支援課 南相馬出張所】

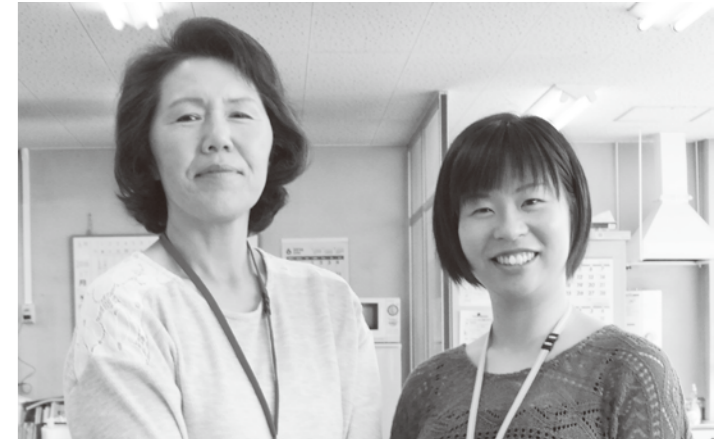
浪江町に最も近い場所に、平成23年11月に設置されたのが南相馬出張所です。

- ◆住所：南相馬市原町区青葉町2-62-2
- ◆電話：0244-23-1112 ◆FAX：0244-23-1114
- ◆対象区域：相馬市、南相馬市、新地町
- ◆対象人数：1,461名(平成28年5月31日現在)
- ◆担当：鈴木美恵子さん、藤田福子さん

南相馬出張所は、原ノ町駅から南へ1 kmほどのところにあります。建物は、双葉町役場の連絡所と共同で使用。浪江町フロアには、社会福祉協議会も入っています。主に南相馬市、相馬市内の仮設住宅や借上げ住宅で暮らす方々を対象にさまざまな方向からサポートされていますが、役場と社協の役割分担もなされ、少しでも不自由さを感じさせない配慮がみえます。

運営は、役場職員3名、臨時職員2名、派遣職員2名の計7名で担当しています。「6月に入ってからは、復興公営住宅への入居に関する手続きや相談がとて増えています」と役場職員のおひとり、鈴木美恵子さん。「申請などで出張所に来た町民の方々は、ちょっと世間話をしたり、交流をしたりする場にもなっています」。

南相馬出張所の大きな特徴ともいえるのが、保健師が常勤職員であることです。保健師の藤田福子さんがその人。月1回の定期的な健康相談の他に、仮設等から情報が提供されるとすぐに駆けつけて対応しています。「申請などで来所された時に、どここの誰々が最近元気ないんだよ～といった情報をくださったりするので、できるだけ迅速に対応しよう心がけています」と藤田さん。安心した暮らしの根底を支える大事な存在です。



▲鈴木美恵子さん(左)と藤田福子さん(右)。鈴木さんは震災当時まで町立保育園の保育士。「震災当日の午前中が避難訓練(地震)でした。担任をしていた5歳児クラスの子どもたちが、訓練そのままに落ち着いて、静かに机の下に入っていた姿は忘れられません。」と振り返っていただきました。藤田さんは、新米ママ。「南相馬市内は待機児童が多いんです」と地域の実状を教えてくださいました。

南相馬市内の場合、仮設住宅から復興公営住宅への転居は、地続きに並んだ住環境から、何棟も並ぶ3階建ての団地暮らしへの変化です。大熊町や双葉町からの入居予定もあり、人間関係も含めて慣れないこととの連続になることが容易に想像できます。また、一人暮らしの高齢者の健康問題は、心身両面からのサポートがより重要になるでしょう。「生活が大きく変わる時期を迎えます。また新たなコミュニティを作り上げることにもなります。自分たちがどこまでサポートしていけるか、不安になることもあります」と正直な胸の内を話してくださいました。

取材年月日：2016年6月21日



心の奥深くにしっかりと刻まれた、ふるさとの味を四季に沿ってご紹介。美味しいものや自慢料理の話は心おこします。お茶飲み会などのネタに、いかがでしょう。

「夏の浪江のご馳走は？」と会う人、会う人にお聞きしました。

津島や阿武隈高原に近い方は… 「じゅうねん味噌や じゅうねんダレ」

お盆の頃には田楽にじゅうねん味噌。そうめんには胡麻ダレならぬ、じゅうねんダレでいただくそうです。エゴマ(荳胡麻)はじゅうねんとも呼ばれ、αリノレン酸を豊富に含む食品として生活習慣病や認知症にも効果が期待できると最近、大変注目されています。

海側やまちなかの方は… 「何と言っても、 お刺身とほっき貝！」

食卓にどんと並ぶのは、鯉やスズキ、アイナメ、ほっき貝などの飛び切り新鮮な魚介類。夏と言えば「中央公園で野馬追の中日(なかひ)」に行われる「ミニ野馬追」が懐かしい」という声もありました。

新しい暮らしのヒントになりそうなお話を拾い集めました。お役に立てば幸いです。



「玄関先の小さなギャラリー」 というアイデア

隣近所が毎日声を掛け合った仮設住宅から、人の気配を感じ難いマンション型の復興公営住宅などへの転居。ご近所付き合いはうまくいっていますか。

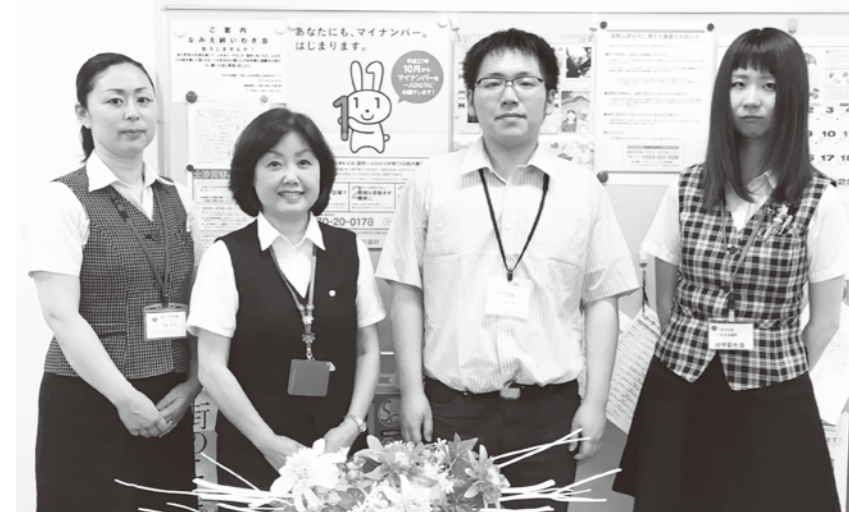
河北新報によると、岩手県沿岸部の県営アパートの皆さんは気さくな近所づきあいが閉ざされてしまった各戸の玄関ドアを「鉄の扉」と呼んでいるそうです。住民の或る女性は、互いの孤立を防ぎ、ささやかな交流を願って玄関ドアにストッパーを挟み、飾り付けをした玄関を開放して、人形を飾ったり、手芸品を並べたりしているうちに、近所の子どもたちが見に来るようになったといいます。

訪問販売などの望まれぬ来訪があるかもしれませんが、この心意気は大事にしたいですね。

リレーインタビュー

【浪江町 生活支援課 いわき出張所】

いわき市には県内で最も多く東日本大震災による避難者が住んでおり、平成 23 年 11 月 1 日にいわき出張所が開設されました。



◆住所:いわき市平字堂根町 1-4
いわき市文化センター 2 階
◆電話:0246-24-0020
◆FAX:0246-24-0026
◆対象区域:いわき市全域
◆対象人数:3,041名(平成28年5月31日現在)

◀いわき出張所を担うスタッフの皆さん。
左から佐藤真由美さん、瀧美佐江さん、早川翔大さん、田中彩也香さん。
瀧さん自身も一人暮らしのお母様を案じ、週に何度も訪ねる生活とのこと。かたや、早川さんのご家族は南相馬市在住。週末には様子を見に戻っておられるそうです。

いわき市出張所は、市内中心部にある「いわき文化センター」内にあります。いわき市内で暮らす町民は、福島市に次いで 2 番目に多く、平成 28 年 4 月末には 3,000 人を超えました。しかし、いわき市は面積が広く、その人々が点在している状態です。運営は、役場職員 2 名、臨時職員 2 名の計 4 名で担当しています。いわき出張所には、証明書発行・賠償相談・復興公営住宅入居に関する相談等で毎日平均 40～50 名が訪れます。

また、避難者の方々と地元住民の方々ととの交流を促進するため、いわき市や県いわき地方振興局との会議にも参加しているそうです。

職員のおひとり、瀧美佐江さんは、「仮設住宅を出なければならぬ時期を迎え、仕事や学校の関係で、復興公営住宅への入居や自宅再建をいわき市でと選択したケースが多いようです。昨年末から急激な伸びを示し、毎月 30 人くらいずつ増えています。浪江町民が入居しているいわき市内の復興公営住宅は、現在 5ヶ所あり、142 世帯 262 名が既に入居しています」と言います。

さらに、「復興公営住宅集会所を視察することもあります。他の町の方々と同じ団地での生活を心配しましたが、自治会もでき、うまくいっているようで安心しました」と、早川翔大さん。

しかし、その一方で新たな課題が見えています。人付き合いの不得手な高齢者に対するサポートです。「日本赤十字社本社・日本赤十字社なみえ保健室・ふくしま心のケアセンターいわき方部センター・県相双保健福祉事



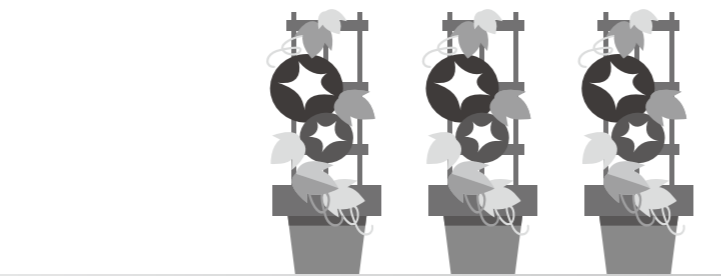
務所・浪江町保健師・いわき出張所による毎月の定例会議があります。ここで問題を検討してくださっている皆さんには、大変有り難く、感謝に堪えません。

また、なみえ絆いわき会のぐるりんご隊の皆さんが高齢者の方々と毎月訪問してくださり、本当に助かっています。こうした訪問の中にも、どうしても暮らしづりが見えないケースがあります。

さらに、浪江では共に住んでいた親世代と子世代が別々の生活になり、家族による見守りの負担が増えている場合があります。健やかな生活ができるように支援していく必要性を常と感じます」と瀧さん。

「来年 3 月、浪江町復興まちづくり計画で目標としている避難指示解除に向けて、除染やインフラ復旧などが進められています。いわき出張所は、しばらく閉鎖はないと思いますが、問題が生じた場合には、柔軟な対応をしていきたい」と今後に向けた対策に取組もうとするお二人の姿が印象的でした。

取材年月日：2016 年 6 月 21 日



浪江の 頑張るひとたち

必ず再建するとの思いが力の源 さらなる夢は「浪江でもう一度看板をあげること」

四季菓匠 長岡家 三代目 長岡 光広さん



新装再開した会津坂下町の店舗内
小石饅頭は 1 個 90 円、午前中に売り切れることもある人気ぶり。オンライン注文もでき、「ネット注文のお客様の大半は双葉郡の方々」とのこと。

浪江町の代表銘菓「小石饅頭」は、いくつ食べても飽きないがキャッチフレーズ。あっさりした白あんを味噌生地で包んだ素朴な味が持ち味です。浪江で生まれ育った人にとって長岡家の菓子は、自分たちが安心できる和の味として定着していたと言っても過言ではありません。

『四季菓匠 長岡家』の創業は昭和 3 年、三代目を受け継いだのが長岡光広さんです。「おじいちゃん子で、祖父の作る菓子が大好きだった」光広さんは、高校を卒業後、菓子専門学校を経て、東京の名店で 10 年ほど修行を重ねて浪江に戻りました。東日本大震災に見舞われたのは、南相馬市小高と双葉町に支店を出す計画が順調に進んでいた頃。ジェットコースターが一気に落下するような勢いで状況は一変しました。

「職人としての技術とカンを鈍らせるわけにはいかない」と光広さん一家は原発事故の影響が少ない首都圏へ避難しましたが、身元を明かした途端に、子どもの入園拒否という悲しい現実を突きつけられたそうです。そんな時に、福島県でも指折りの有名菓子店の社長から声がかかり、会津坂下町へ。「先の見えない中でも、どこかで必ず店を再建する思いだけは折れることがなかった」と振り返ります。

平成 26 年暮れ、光広さんは待望の新店舗をオープンしました。放射性物質を懸念するお客様に配慮して器材は浪江から持ち出さず、全て新調。浪江町の店舗と比べれば、販売スペースは半分程度でも、長岡さん一家にとっては再出発の居城です。再開に反対だったご両親も、隣地に自宅を設け転居しました。「親父は口にごそ出しませんが、嬉しいんでしょうね。朝早く起きて、仕込みを手伝ってくれたりしています」と光広さん。

小石饅頭を筆頭に、長岡家の和菓子は会津でも好評です。長岡家の菓子のこだわりは、素材と四季の移ろい。菓子によってあんの甘さも違う繊細な職人の技と心は、地域を越えて魅了します。「浪江の人には懐かしく、会津の人には新鮮で斬新と感じていただけたら嬉しい。今後は、会津の風土に合った菓子も開発していきたい」と、震災にも負けなかった職人魂で今日も菓子づくりに励んでいらっしゃいます。

＜お問合せ＞
四季菓匠 長岡家
営業時間：8 時 30 分～18 時 30 分
定休日：火曜日
☎0242-93-5585
福島県河沼郡会津坂下町字逆水 23-2
URL：http://www.wagashi-nagaokaya.jp/

★ 浪江の笑顔 ★

「元気の源」をお聴きください。
離れて暮らす浪江の皆さんの笑顔をお届けします。

★ 紫 孝一さん 【南相馬市】

築地魚河岸でも高い評価を得ていた請戸港の活魚は私たちの誇りでした。先代から受け継いできたのれんを妻と必死に守り継いで、次の世代へと渡したかったのですが…。今、地域の要望もあり、南相馬で新しいブランドを立ち上げるために日夜思索中。浪江の人たちに喜んでもらえるような商品を作りたいと思っています。

★ 君島 勝見さん 【安達郡大玉村】

長い間行政区長をした経験を生かして防犯や見守り隊を引き受けました。自分の出来る限りのことが、浪江復興の一端に繋がればと心から願っています。今年の復興祭では多くの懐かしい人々と会い、お互いに励まし励まされました。5 年の歳月、体力の低下は如何ともしがたいですが、ふるさとで再会出来る日まで、頑張っていきたいです。

★ 山田 千代子さん 【福島市飯坂町】

飯坂へ越してきてから、主人が皆さんのお世話役を引き受けたので、私も及ばずながら少しでもお手伝いできればと考えています。こちらで今年初めて迎えた春は、子どもたちが飛び回り、大人たちも春爛漫の桜や桃の花に心を癒されました。住み慣れた家を離れた時は辛くもありましたが、最愛の孫も隣に移って来てくれ、とても嬉しいですよ。

★ 日下 としいさん 【福島市】

友人の多くいる南矢野目に家を持つことができ、先日移って来たばかりです。笹谷東部で 5 年間培ってきたコミュニティの強い繋がりは、これからも生涯続けられればと願っています。いろいろな趣味のサークル活動、キルティング、フラダンス、ストレッチングなどずっと続けていきたい。苦しみも楽しみも共有してきた仲間から感謝しています。

映画の時間ですよ ～福島ゆかりの作品⑮～

野望と陰謀が渦巻く『博徒斬り込み隊』

映画データ：
1971年 97分
日本(東映)
監督:佐藤純彌
出演:鶴田浩二、若山富三郎、渡辺文雄、丹波哲郎 ほか

作品のロケ地：福島市(飯坂温泉)

七年ぶりに相羽(鶴田浩二)が出所すると「組」は既に無く、日本最大の大日本菊名会が仕切っていた。彼を慕う子分が殺され、郷里の福島まで遺骨を届けることになった。相羽は縁あって飯坂に草鞋を脱ぐが、全国制覇を狙っている菊名会は鉄砲玉を送り込んで地元組織の乗っ取りを目論んでいた。暴力団壊滅を掲げて東京から指揮官を送り込んで来た警察が絡んで、ついに三つ巴の抗争が始まる。当時の駅舎や町並みが記録され、飯坂温泉の賑わいの記憶が蘇る社会派アクション作品。
【筆：南田白牛】

ご希望があれば、仮設住宅集会所等で無料上映会を開催いたします。お問合せください ☎024-573-8310 E-mail info@partners-npo.jp

活動支援のお願い

新聞では、みなさまの支え合い活動や復興に向かう姿、継続した応援に取組む活動団体などをご紹介します。
東北・相双地域の今を発信しています。

寄付金はいずれかの口座振込みでお受けしています

郵便口座へのお振込みの場合
口座番号 02270-9-117981
特定非営利活動法人市民公益活動パートナーズ

銀行口座へのお振込みの場合
東邦銀行 本店営業部
口座番号 普通 3672940
トクビ シミンコウエキカツドウパートナーズ
※おかけまで、2014 年 9 月 16 日「仮認定 NPO 法人」となりました。
引き続き 1 口 3,000 円以上のご寄付をお願いします

**古い切手やはがき
お譲りください**

値段が変わって
使いづらくなってしまった
80 円・50 円切手や官製はがき。
新聞の発送用として寄付していただけますか?*

★呼びかけ以降、切手などをお寄せ頂いた方々に、紙面を借りて御礼申し上げます。

<お問合せ先>
NPO 法人市民公益活動パートナーズ(古山)
☎024-573-8310 FAX024-573-8319

『おたがいさま新聞(ふらす) 39 号』をお読みいただき、ありがとうございます。あなたのご意見、ご感想をお寄せください。E-mail にて受付中!

E-mail info@partners-npo.jp